

## テーマ：習慣性流産の中医学臨床対策

### 1. 概要

習慣性流産の中医学による病因病機・弁証論治から考えれば、弁証は腎虚・肝鬱・脾虚と考えられ、主な治則は補腎疏肝健脾で、排卵前後の分期論治を強調し、安胎を重視、服用と外用を同時に進行する事で治療の参考となる。

習慣性流産は中医学の滑胎に属し、中医学治療では「予培其損」(予め体の弱い所を整える)を原則として、妊娠前の体質改善、妊娠後の安胎の臨床効果が顕著。

### 2. 病機 (メカニズム)

\*腎虚：腎虚の原因は、両親からの先天性不足、房事、久病等。《素問・奇病論篇》「胞絡者繋於腎。」胎児を支える経脈は腎に繋がる。尚、腎は先天の本、精を蔵し、生殖を主る。

\*肝鬱：《靈樞・経脈》足厥陰肝経の流注に「入毛中、環陰器」とあり、肝経は生殖器に関わる。尚、《格致余論》「主疏泄者、肝也」。流産を繰り返し、心身に辛い負担がかかる事で肝鬱なりやすいので、疏肝理気の治療が大切。

\*脾虚：《景岳全書》「凡胎孕不固，無非気血損傷之病，盖気虚則提摄不固，血虚則灌溉不周，所以多致小産。」流産の原因は気血不足で、気虚により固摂できず、血虚により栄養届かず、従って流産に至る事が多い。脾は気血を作る源で、脾虚の場合、気血を作れなく、安胎には健脾が肝心である。

### 3. 治療

①主な治療方針は補腎疏肝健脾。

②補腎助孕方：菟絲子、女貞子 (共に補肝腎、根本的治療)、北沙参 (益胃生津、健脾運化)、山薬 (健脾補腎)、代代花 (疏肝理気)。

③弁証により生薬の加減

タイプ	症状	生薬
腎陽虚	腰膝だるい、四肢冷え、小便清長、便溏	巴戟天、杜仲、鹿角霜
腎陰虚	踵が痛い、めまい耳鳴り、五心煩熱、便秘	墨旱蓮、枸杞子
気血両虚	疲れ易い、めまい、顔色白い艶なし、動悸	四君子湯+黄耆、党参、太子参。或いは+四物湯、阿膠
肝鬱脾虚	気が沈む、食欲低下、便溏	逍遥散+川玉金、百合、月季花
寒客胞宮	生理色暗い、血塊あり、下腹部温めたら楽	温経湯 or 陽和湯+烏薬

痰湿	体型太め、膨満感、食欲低下、倦怠感	平胃散+竹筴、半夏
久病瘀血	(未記載)	益母草、川芎、沢蘭、牛膝

#### ④分期論治

期間	治療方針	漢方
排卵前	補腎疏肝、健脾活血	補腎助孕方+沢蘭、牛膝(活血、排卵を促す)
排卵後	補腎温陽、健脾	補腎助孕方+巴戟天、白朮、陳皮(補気暖宮助孕)

#### ⑤安胎：寿胎丸合芍薬甘草湯。

習慣性流産の原因は腎気虚、衝脈任脈の養分不足→安胎できず→少量不正出血或いは下腹部痛・腰だるい→繰り返す流産。

寿胎丸《医学衷中参西録》は補腎安胎、芍薬甘草湯《傷寒論》は止痛効果あり、食欲低下の場合は+砂仁、陳皮、白朮、山薬(理気健脾)。安胎漢方は不正出血等の症状が出る前に予め服用すべき。

#### ⑥服用と塗布薬、両方並行

漢方服用の基本で、小茴香(ウイキョウ)を炒め、砕いて漢方のかすに混ぜて作成。使用前に加熱、温かく肌に耐えられる程度で、毎日20分間腹部に塗布。小茴香は温腎暖肝、散寒止痛の働きがあり、漢方を肝・腎経絡に引き入り、子宮に届く。

#### 4. 典型的な症例

31歳女性、2012、2014、2016年3回流産(7~8週目に)、2017年2月通水検査を行った。

診療日	症状	漢方(グラム)
1回目(2017.11.16)	最終生理2017.10.27、生理周期30日、出血3日間、量少なめ、経色暗紅、血塊(-)、生理痛(-)、腰だるい(-)、胸張る(-)。五心煩熱、手汗、口渇、睡眠・食欲・二便NP。(腎陰虚)舌暗紅、苔黄膩、脈弦滑。	菟絲子15、女貞子10、北沙参12、山薬12、代代花12。黄精12、玉竹10(滋陰)。青蒿12(清虚熱)。茯苓12、陳皮12、葛根15、竹筴12、佩蘭12(後煎)(健脾化湿)。当归12、川玉金12、牛膝12(活血)、沢蘭18。28日分。
2回目(2017.12.16)	最終生理11/16、量少なめ、経色暗紅、胸張る(+)、五心煩熱・手汗(+)、口渇改善、胃もたれ。舌淡暗少苔、脈弦滑。	前処方川玉金・葛根・玉竹を抜き、+鶏内金30(健脾消食)、地骨皮12(清熱)、益母草15(活血調經)、橘葉12(疏肝理気)、山薬20。33日

		分。
3 回目 (2018.1.25)	最終生理 12/28、生理 28 日目、 HCG99.57mIU/ml、E2 184pg/ml、 P4>40ng/ml 腹痛(-)、少し褐色おりもの。 舌暗紅、苔薄白、脈滑。	桑寄生 12、菟絲子 12、続断 12 (寿胎丸を阿膠抜き)、砂仁 3 (後煎)、陳皮 12、白朮 12、山藥 12、黄耆 9 (健脾補氣)。仙鶴草 10 (補虚止血)。白芍 12、炙甘草 6。7 日分。

\*外用薬：診療 1 回目から小茴香 20g を使用、2 回目排卵したら活血・外用を止める。

\*3 回目診療に、血液の肝腎機能と甲状腺機能、Dダイマー、血小板凝集検査が正常。HCG、E2、P4 を毎週検査。

\*2018.2.12 心拍確認、漢方を止め、その後、HCG、E2、P4 の値により、西洋薬で 10 週目まで安胎、9/23 帝王切開で元気な赤ちゃん出産。(腎気が補充され、安胎でき、順調に産した)

## 5. 感想

\*3 回流産歴がある 31 歳患者に、2 ヶ月漢方で妊娠できて、凄い症例と思う。

\*安胎の治療は流産週目(症例は 7~8 週)を超えるべきと主張したが、本症例では最終生理の 46 日目(心拍確認)から西洋薬のみ(10 週目まで)使用。漢方を止めた理由は記載していない。

